

# プログラム近況報告

インド キラユ地域開発プログラム(IND-194000)

2013年度(2012年10月1日～2013年9月30日)

World Vision

この子を救う。未来を救う。



## 栄養不良改善のため 緊急対策を行いました!

キラユ地域開発プログラム(以下、ADP)では、地域の5歳以下の栄養不良状態にある子どもたちに対し、90日間の「緊急栄養キャンペーン」を行いました。

栄養改善プログラムの食事をする子どもたち

ニティヤちゃん(4歳)は、日雇いで働くお父さん、お母さんと妹のディヴィヤちゃん(3歳)の4人家族です。ニティヤちゃんもディヴィヤちゃんも、重症の栄養不良状態だったため、緊急栄養キャンペーンの支援に参加しました。以前はとても弱々しく、遊んでいるときや家の回りにいる時にも元気がありませんでしたが、90日間栄養価の高い食事を支援され、ニティヤちゃんの状態は一変しました。彼女は設定された栄養状態の2段階のレベルをクリアしたのです。母親のデヴィカさんは「90日間で9.4キロだったニティヤの体重は10.6キロまで増えました。以前はしょっちゅう熱を出したりグッタリしていました。ここしばらくは熱を出さなくなっ

ニティヤちゃん(中央写真)とその家族

ています。私は子どもたちに引き続き栄養価のある食事を食べさせるようにしています。ワールド・ビジョンは私たち家族にヤギを与えてくれましたし、子どもと栄養について目を開いてくれました。ニティヤは今ではとても活発になり、友だちと元気に遊んでいます」



### チャイルド・スポンサーの皆さま

日ごろより、チャイルド・スポンサーシップを通して、温かいご支援を賜りまして、心より感謝申し上げます。2013年度の活動報告として「プログラム近況報告」と、チャイルドの「成長報告」をお届けいたします。昨年度も活動を進めることができましたのは、子どもたちを思い、継続的にご支援をくださる皆さまのおかげと、感謝しております。

この1年の地域支援における活動の成果、今後の課題をご確認いただくとともに、チャイルドの成長とともに喜んでいただけますと幸いに存じます。

皆さまのチャイルド、そしてすべての子どもたちが健やかに成長できる地域となることを目指し、活動を続けてまいります。

皆さまの尊いご協力を、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

特定非営利活動法人  
ワールド・ビジョン・ジャパン  
常務理事・事務局長

片山 信彦





## ADPマネージャーからのごあいさつ

2013年度の活動報告をキラユ地域を代表して行うことができ、大変光栄に存じます。キラユ地域の貧しく抑圧されている人々に対する、皆さまからの温かい継続的なご支援に、心より感謝申し上げます。皆さまのご支援により子どもたちとその家族、さらには地域全体に多くの変化が起こっています。皆さまの上に平和と祝福をお祈りいたします。

アルル・プラカシュ S  
(キラユADPマネージャー)



## 生計向上プロジェクト

地域内で活動する自助グループに対し、帳簿のつけ方や地方政府とのネットワークの持ち方などに関する研修を行いました。また、乳牛を中心とした家畜の飼育方法の研修を行ったり、灌がいのための水利用者委員会結成に向けた働きかけを行いました。その

ほか、職についていなかったり、技能を持っていない若者に対し、収入獲得のための、縫製、電化製品の修理、コンピューター技術、左官などの技能研修を行うと同時に、若者たちのリーダーシップ育成を目的とした若者グループの形成も進めています。



ミシンと裁縫技術の支援を受けた女性



様々な研修を受けた女性自助グループのリーダーたち

## 栄養プロジェクト

今年度、90日間の緊急栄養キャンペーンを行い、栄養不良と診断された子どもたちの89%に対し、90日間に渡り栄養価の高い食事を提供しました。その結果、キャンペーンに参加した子どもたちの内59%の栄養状態が改善し、その内20%は正常な栄養状態にまで改善されました。このほか、深刻な栄養不足の子どもを持つ54家族には、それぞれ

3～4頭のヤギを支援し、ここから得られる収入によって子どもに栄養のある食べ物を十分に与えることができるようにしました。中程度の栄養不良状態にある子どもがいる495世帯の家族に対しては、それぞれ6羽の鶏を支援しました。鶏は6カ月ないし10カ月後には卵を産むようになり、この卵を食べることで栄養状態を改善することが期待されています。



子どもたちの健康状態が改善されています



地域の家庭の台所



## 保健プロジェクト

### 安全な飲料水のための投資

今年度、豪雨の被害により、地域では安全な水の供給に影響がありました。多くの家庭で地域内の池の水を使わざるを得ず、その結果、健康に多くの問題が生じました。そこでADPでは、6カ村に12の掘抜き井戸を掘り、2カ村には高架式のタンクからのパイプラインを設置し、3カ村には紫外線処理できる浄水施設を設置しました。これにより、合計2,151家族が清潔な水を使えるようになりました。



コミュニティに支援した掘り抜き井戸



カニモジちゃん(前列中央)と家族

### 女の子もいつでも安心して

#### トイレに行けるようになりました

カニモジちゃんは草ぶき屋根の家に、両親と姉、弟、祖母と暮らしています。この一家は家にトイレがないことから多くの問題を抱えていました。この地域では思春期の女の子を含む女性たちはトイレがないために、夕方暗くなるのを待って近くのやぶに行くのを常としていました。日中に用足しに行きたくなくても、集落の男性の目を避けて排便することが難しかったからです。そのような状況を改善するため、ADPではこの家族に「環境にやさしいトイレ」を支援しました。このトイレは、コンクリートの便器とLED電灯の太陽光発電システムを備えています。今ではカニモジちゃんと家族は、家の裏庭に建てられたこのトイレでいつでも用を足すことができるようになりました。父親のムルゲサンは「娘たちや家族の女性たちもいつでも好きな時に清潔なトイレで用を足すことができるようになり、本当に助かっています。本当にありがとうございます」とトイレが設置された喜びを話してくれました。



地域でのトイレ建設の様子

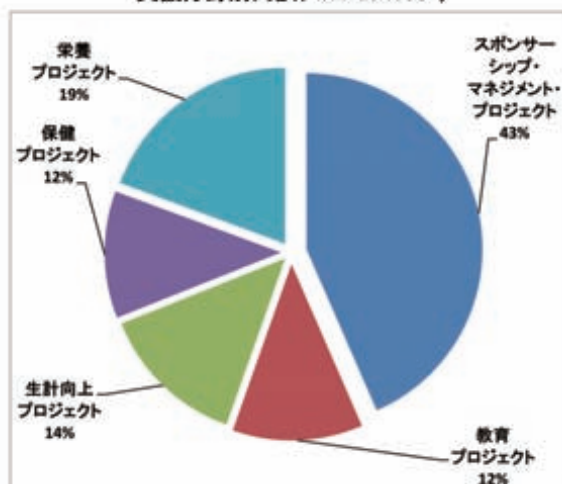
## 会計報告

### 収支計算書

自 2012年10月1日 至 2013年9月30日

	IND-194000 (単位:円)
<b>プログラム支援額</b>	
チャイルド・スポンサーシップ	26,440,976
当期支援額	26,440,976
前期繰越金	5,722,322
<b>プログラム支援額合計</b>	<b>32,163,298</b>
<b>プログラム支出額</b>	
スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト	13,939,249
教育プロジェクト	3,835,200
生計向上プロジェクト	4,346,423
保健プロジェクト	3,739,372
栄養プロジェクト	6,216,068
<b>プログラム支出額合計</b>	<b>32,076,312</b>
次期繰越額	86,986

### 支援分野別内訳( IND-194000 )



## 教育プロジェクト

学校運営委員会（SMC）の強化に取り組み、毎月の会議を行うなどその活動が活発化しています。また、地域の学校でニーズの高かった女子トイレの建設を行い、2校で新しいトイレが設置されました。

地域の人々に対しては、子どもの権利や保護者のリーダーシップの重要性について研修を行いました。そのほか、31カ所で子どもクラブが結成され、子どもたち自身が子どもの権利や、衛生的な生活を保つことの大切さについて学んでいます。

## スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト

「スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト」では、チャイルドとの手紙の交流や毎年の成長報告などを通して、支援の成果を実感していただくための活動を行っています。そのため、チャイルドの成長を定期的にモニタリングし、支援事業がチャイルドとその家族、さらに地域の人々の生活をどのように改善しているのか確認を行っています。また、チャイルドの家族や地域の人たちが「子どもを中心とした開発」を理解し、その支援活動の中心を担っていくような啓発活動も行っています。

### 甦った心臓

ルビーちゃん（14歳）は心臓の一部に穴が開いているという病気を抱えていました。家族は色々な病院でルビーちゃんを診てもらい、30万ルピーもの費用がかかる開胸手術が必要と言われましたが、一家は貧しく、とてもそんな巨額の費用を工面などできませんでした。ワールド・ビジョンはチェンナイ市にある子ども病院とのネットワークを活かし、ルビーちゃんが無料で手術を受けられるようにしました。またそのほかの治療費やチェンナイまでの移動費用、入院期間の家族の交通費等を援助しました。父親のアラゲサンさんはルビーちゃんが入院している間、鉄工場で日雇いとして働き、その収入で家族を支えました。今ルビーちゃんは「甦った心臓」のおかげで、元気に勉強を続けています。ルビーちゃんはこう言っています。「私はよく気を失ったり、唇や鼻から出血していました。ほかの子どもたちにとって普通なことが、私には普通ではありませんでした。ワー

ルド・ビジョンは私が手術を受けられるように支援してくれました。今では学校にも通えて、良い成績をとれるようになり、とても幸せです。学校へ行くときに通学カバンを持ち上げることだってできるし、お友だちと元気に遊ぶことだってできます。ありがとうございます！」



ルビーちゃん(右)とその家族

お問い合わせ

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン

電話：03-5334-5351 FAX：03-5334-5359

e-mail：dservice@worldvision.or.jp ホームページ：www.worldvision.jp

ワールド・ビジョン・ジャパンの活動についての最新情報を掲載しております。ホームページにぜひお立ち寄りください。



# プログラム近況報告

World Vision

この子を救う。未来を救う。

インド プドゥコッタイ地域開発プログラム(IND-194856)

2013年度(2012年10月1日～2013年9月30日)

## 子どもたちの栄養状態が改善しています

プドゥコッタイ地域開発プログラム(以下、ADP)では、5歳未満の子どもたちの栄養状態改善のため、緊急栄養キャンペーンを行いました。栄養不良の状態にあった632人の子どもたちを対象に、栄養価の高い食事がとれるよう90日間の緊急栄養改善活動を行いました。ワールド・ビジョンからは、栄養価の高い食材の支援を行い、地域の人々も地元で入手できる野菜や、火をおこすための薪を提供し、地域内50カ所ですべての食事が配布が行われました。栄養のある食事の作り方を母親たちは学び実践しました。この活動により、子どもたちの栄養状態が大きく改善されています。



子どもたちが準備された食事を取っている様子

### チャイルド・スポンサーの皆さま

日ごろより、チャイルド・スポンサーシップを通して、温かいご支援を賜りまして、心より感謝申し上げます。2013年度の活動報告として「プログラム近況報告」と、チャイルドの「成長報告」をお届けいたします。昨年度も活動を進めることができましたのは、子どもたちを思い、継続的にご支援をくださる皆さまのおかげと、感謝しております。

この1年の地域支援における活動の成果、今後の課題をご確認いただくとともに、チャイルドの成長とともに喜んでいただけますと幸いに存じます。

皆さまのチャイルド、そしてすべての子どもたちが健やかに成長できる地域となることを目指し、活動を続けてまいります。

皆さまの尊いご協力を、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

特定非営利活動法人  
ワールド・ビジョン・ジャパン  
常務理事・事務局長

片山 信彦



## ADPマネージャーからのごあいさつ

ブドゥコッタイ地域よりごあいさつ申し上げます。皆さまのご支援により、子どもたちと地域の人々の生活に様々な変化がもたらされていることをお知らせでき、大変嬉しく思います。この報告書を通じ、活動の成果を実感いただければ幸いです。皆さまの心からの惜しみないご支援に感謝を申し上げますとともに、今後も引き続きご支援いただけますようお願い申し上げます。

ジョンソン A (ブドゥコッタイADPマネージャー)



## 栄養プロジェクト

栄養プロジェクトでは、子どもたちの栄養状態を改善するため食事の提供を行ったほか、栄養価の高い野菜などの食材や、栄養バランスのとれた食事の重要性について、母親たちに啓発する講習会を開催しました。さらに、トイレを使った後や料理をする前に手を洗う習慣をつけるよう指導したほか、野菜を栽培するための講習会を行いました。また、特に厳しい経済状況にある家族に乳牛の支援を行い、子どもたちが牛乳から栄養をとり、残った牛乳を売って収入を得て、子どもたちの成長に必要な食材を買えるよう支援しました。



栄養についての講習会で話し合う地域の人々

## 経済開発プロジェクト

23の自助グループのリーダーたち61人に対して帳簿のつけ方を指導したほか、451人の自助グループメンバーへグループ運営に関する研修を行いました。また、農業や家畜飼育の技術と生産向上のための研修も行いました。乳牛の支援を受けた168家族のその後の状況を確認し、自助グループ内で各家庭の収入の状況や貯金活動の進捗について確認を行いました。自助グループの活動が効果的に機能しつつあり、メンバーの中での地域の金貸しへの依存度が減少しているのがわかりました。

### “私の人生は変わった” ～栄養不良の子どもがいる家族への支援がもたらしたもの

マニマガライさんは、6歳の娘と4歳の息子のお母さんです。夫は日雇い労働者ですが、ほとんど仕事がありません。そのため家族は多くの困難に直面し、それが度重なる夫婦間の争いの原因になっていました。ある日マニマガライさんは、地域の特に貧しい人々を対象とする、貯蓄と収入創出などの活動を行う自助グループに参加し、貯蓄について学び、少しずつ貯金ができるようになりました。また、ワールド・ビジョンから乳牛の支援を受けたことで、毎日子どもたちが牛乳を飲み栄養をとることができるようになったほか、残った牛乳を売り収入を得られるようになりました。



マニマガライさん家族



## 教育プロジェクト

### 子ども議会の推進

子どもたち自らが地域の課題を考えて話し合い、地域の行政機関などに声を届ける子ども議会の活動を行いました。地域の将来を担う子どもたちが、リーダーシップの能力を身につけることを目指しています。今年度、子ども議会に関する研修を受けた子どもたちは、4つの地域で子ども議会を設立しました。実際、村での集会で地域の行政官に会った際、学校で安全な飲料水を得られるように設備を設置することや、村から8キロ離れた高校への通学手段の確保についてお願いしました。地域の行政官は子どもたちの社会的な関心の高さに驚き、できるだけ早く実現できるようにすると約束しました。



子ども議会の活動の様子



子ども議会での話し合いの様子

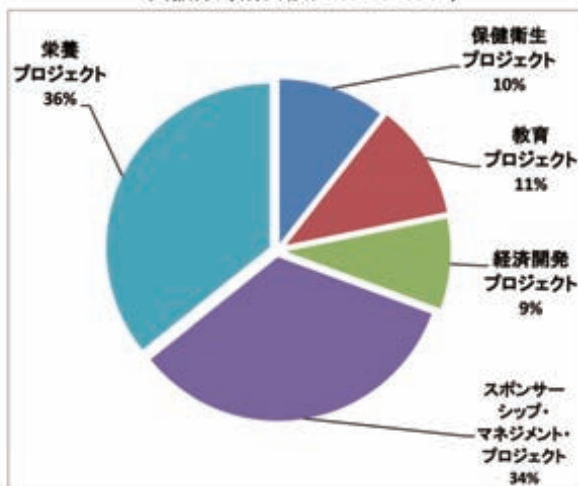
### 会計報告

#### 収支計算書

自 2012年10月1日 至 2013年9月30日

IND-194856 (単位:円)	
<b>プログラム支援額</b>	
チャイルド・スポンサーシップ	28,645,269
当期支援額	28,645,269
前期繰越金	1,572,382
<b>プログラム支援額合計</b>	<b>30,217,651</b>
<b>プログラム支出額</b>	
保健衛生プロジェクト	2,865,306
教育プロジェクト	3,070,422
経済開発プロジェクト	2,417,457
スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト	9,163,202
栄養プロジェクト	9,746,578
<b>プログラム支出額合計</b>	<b>27,262,965</b>
次期繰越額	2,954,686

### 支援分野別内訳( IND-194856 )





## 保健衛生プロジェクト

5歳以下の子どもたちの健康状態を改善し、また予防可能な病気による死亡率を減らすため、地域の人々へ啓発活動を行いました。地域の人々は、生後6カ月までの子どもたちにとって、母乳だけでは栄養が不十分であることを知りませんでした。また、初乳の重要性を知らず、産まれてから3日間母乳を与えないという、迷信のような習慣を大切にしてきました。そのため地域の母親たちが正しい知識を身につけ、子どもたちが5歳を迎えるまで健康に育つことができるよう励ましました。この啓発活動を通じて、母親たちや、自助グループのリーダー、児童ケアセンター職員たちは、子どもの健康に関連した深刻な課題や母親の栄養の重要性について、今まで以上の知識を得ることができました。また、HIV/エイズに感染した子どもたちが最近確認されているため、地域の人々がHIV/エイズについての正しい知識を持ち、差別や偏見をなくすことを目指したイベントも開催しました。HIV/エイズ感染者向けにも啓発活動を行い、HIV/エイズとともに生きることについて、理解が深められました。



学校でHIV/エイズについて啓発活動が行われました

### 私は自分の悪い習慣を矯正しました



ラジャマニカムさん

ラジャマニカムさん(20歳)は小学校8年生まで学校に通いましたが、家庭の経済的な理由により勉強を継続できず、今はさきりをしています。かつて仕事仲間から飲酒に誘われたことから、彼はアルコールを飲み始め、次第にアルコール中毒になりました。彼の家族は心配していましたが、周りの人たちからは、この問題から誰も彼を助けることはできないと言われていました。そのような時、ワールド・ビジョンが主催した若者のためのリーダーシップ訓練に参加しました。薬物濫用について学ぶ機会があり、薬物がいかに健康に有害かについて知り、訓練の後飲酒をやめることができました。今では職場の仲間たちに、自分が学んだことを伝えています。彼の家族や地域の人々もこの変化に大変喜んでいました。



若者のためのリーダーシップ訓練を行いました

## スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト

「スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト」では、チャイルドとの手紙の交流や毎年成長報告などを通して、支援の成果を実感していただくための活動を行っています。そのため、チャイルドの成長を定期的にモニタリングし、支援事業がチャイルドとその家族、さらに地域の人々の生活をどのように改善しているのか確認を行っています。また、チャイルドの家族や地域の人たちが「子どもを中心とした開発」を理解し、その支援活動の中心を担っていくような啓発活動も行っています。



支援を喜ぶ地域の子どもたち

お問い合わせ

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン

電話：03-5334-5351 FAX：03-5334-5359

e-mail：dservice@worldvision.or.jp ホームページ：www.worldvision.jp

ワールド・ビジョン・ジャパンの活動についての最新情報を掲載してあります。ホームページにぜひお立ち寄りください。



# プログラム近況報告

World Vision

この子を救う。未来を救う。

インド サイダペット地域開発プログラム(IND-194854)

2013年度(2012年10月1日～2013年9月30日)

## 子どもたちが生き生きと育まれるために



ライフ・スクールで学ぶ子どもたち

サイダペット地域開発プログラム(以下、ADP)では、地域の住民組織のメンバーがプログラムの運営に協力し、5日間のライフ・スクール・プログラム※が15カ所で行われ、合計1,798人の子どもたちが参加しました。子どもたちは情報を知る権利が子どもにもあることや、道徳教育などさまざまな科目について楽しみながら学びました。子どもたちの両親も、子どもたちに良い行いと態度が身に付くよう教育してくれたことを大変感謝しました。

※ライフ・スクール・プログラム：ダンスや歌などを通じて子どもの権利を学びます

### チャイルド・スポンサーの皆さま

日ごろより、チャイルド・スポンサーシップを通して、温かいご支援を賜りまして、心より感謝申し上げます。2013年度の活動報告として「プログラム近況報告」と、チャイルドの「成長報告」をお届けいたします。昨年度も活動を進めることができましたのは、子どもたちを思い、継続的にご支援をくださる皆さまのおかげと、感謝しております。

この1年の地域支援における活動の成果、今後の課題をご確認いただくとともに、チャイルドの成長をも喜んでいただけますと幸いに存じます。

皆さまのチャイルド、そしてすべての子どもたちが健やかに成長できる地域となることを目指し、活動を続けてまいります。

皆さまの尊いご協力を、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

特定非営利活動法人  
ワールド・ビジョン・ジャパン  
常務理事・事務局長

片山 信彦



## ADPマネージャーからのごあいさつ

サイダベット地域よりごあいさつ申し上げます。この活動報告書をお届けできることは私たちスタッフ一同の大きな喜びです。皆さまからの温かいご支援により、厳しい環境にある子どもたちや地域の人々への支援活動を行うことができました。皆さまからのご支援は、地域の人々や子どもたちの生活を大きく変えています。支援地域の人々を代表し、皆さまのご支援に心より感謝申し上げます。

Y.サララ  
(サイダベットADPマネージャー)



## 保健プロジェクト

住民組織のメンバーや保育園の教師に対し、母子保健に関する8つのテーマについての研修会を行いました。具体的には、妊娠前の女性の健康、母性保護、妊娠中の健康管理、妊婦のマラリア予防、新生児のケア、産後の母体のケア、母乳保育、乳児の予防接種について学び、参加者の母子保健についての理解が深まりました。今後は、研修を受けた地域住民や教師が中心となって、地域の子どもの栄養不良の改善に取り組む予定です。研修を受けた住民組織のメンバーの一人シャンカリさんは涙をこらえながら、「私は自分の無知のために娘を3歳で亡くしました。だからこそ、今度は私の地域の子子どもたちが予防可能な病気で命を落とすことのないよう働きかけていきたいです」と話してくれました。



母子保健に関する研修に参加する母親たち

地域では、安全な水の確保が大きな問題となっています。これまで唯一の水源は、タミルナドゥ州政府の市水道局によるタンクローリーでの給水でした。しかし、来る時刻が決まっておらず、人々は家から容器をもって集まり何時間も待つのが日課となり、子どもたちは学校を休んだり、大人たちは仕事を犠牲にして時間を費やし、子どもの教育と収入にとって大きな問題となっていました。そのような状況を改善するため、5,000リットルの貯水タンク7つと、3,000リットルのタンク2つを設置しました。また、住民たちは、タンクを設置するコンクリート台を建設するためお金を出し合いました。これにより、今では水道局のタンクローリーがタンクを満タンにし、いつでも汲みに来ることができるようになり、252家族が利用できるようになりました。



タンクから水を汲んでいる様子



## 指導者育成プロジェクト

10代の子どもたちに対し、男女別の研修会が行われ、男子126人と女子425人が参加しました。研修では、男女それぞれの健康管理の方法のほか、性別に関係なく与えられている権利について、また、両親や異性を尊敬することなどについて学びました。また、女子生徒たちは、将来出産した際に子どもが栄養不良にならないよう、妊娠前～産後の母親の健康についての知識も学んだほか、貯蓄の重要性を学び、研修後には、それぞれの地域で少額ずつ貯金をするため、グループを作り活動しています。



若者たちの研修会の様子

## 栄養プロジェクト

2012年1月に行われた戸別訪問の調査により、地域の子どものうち61%が栄養不良の状態にあることがわかりました。そのため、今年度は、5歳未満の子どもと妊婦たちに焦点を当てた活動を行いました。調査結果を分析し、栄養に関する知識の不足、女性たちの貧血、次の出産までの期間が短いこと、地域の衛生環境が不十分なこと、アルコール依存、迷信などの慣習が地域の子どもの栄養不良に影響していることがわかりました。これらの結果を受け、90日間の緊急栄養改善プログラムを実施し、栄養価の高い食事が提供されました。同時に十代の少女、授乳中の母親、妊娠中の女性、そして男性や地域の人々に対し、学ぶ機会を提供しました。このプログラムは地域内8地区で行われ、栄養不良の子どもたち168人の栄養状態について、25%が改善し、64%が正常な状態に達しました。



栄養不良の子どもたちへ栄養価の高い食事を提供している様子

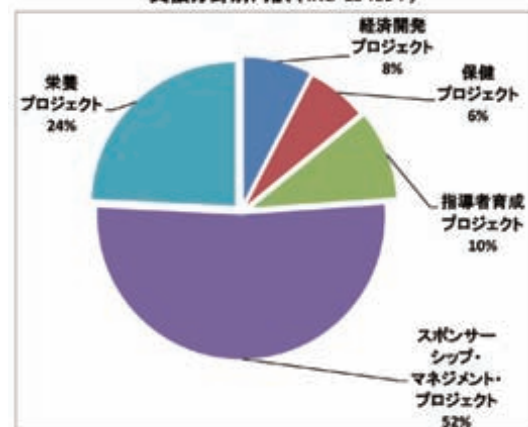
### 会計報告

#### 収支計算書

自 2012年10月1日 至 2013年9月30日

	IND-194854 (単位:円)
<b>プログラム支援額</b>	
チャイルド・スポンサーシップ	34,308,195
当期支援額	34,308,195
前期繰越金	79,149
プログラム支援額合計	34,387,344
<b>プログラム支出額</b>	
経済開発プロジェクト	2,455,154
保健プロジェクト	2,125,009
指導者育成プロジェクト	3,192,724
スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト	16,895,260
栄養プロジェクト	7,881,335
プログラム支出額合計	32,549,482
次期繰越額	1,837,862

#### 支援分野別内訳 (IND-194854)



当ADPはインドの大都市の一つチェンナイの都市部を対象地域としているため、現地事務所の賃貸料など事業管理にかかる費用が、農村部のそれに比べて高額になる傾向にあります。そのため、事業管理費を含むスポンサーシップ・マネジメント・プロジェクトの支出割合が高くなっています。

## 経済開発プロジェクト

最もぜい弱なグループで原住民に属する人々に対し、経済的な支援を行いました。彼らは元々、狩猟を主な生計としていましたが、狩猟が禁止され、代わりにビーズ飾りの装飾品などを作り、販売することで生計を立てるようになりました。彼らはビーズ飾りが売れる場所を求めて、場所から場所へと移動する生活を送ってきたため、大人と一緒に移動する子どもたちは学校へ行くことができませんでした。そのような状況にあるジブシーの人々の生計状態を改善するため、チェンナイ市と協働し、各家族にクリスタルビーズ（装飾品を作成する材料）を配布しました。これらの対象家族は政府の店舗を通じてフェアトレードセンターでビーズを売り、収入を増やすことができるようになっています。



チェンナイ市長からクリスタルビーズが配布される様子

## スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト

「スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト」では、チャイルドとの手紙の交流や毎年の成長報告などを通して、支援の成果を実感していただくための活動を行っています。そのため、チャイルドの成長を定期的にモニタリングし、支援事業がチャイルドとその家族、さらに地域の人々の生活をどのように改善しているのか確認を行っています。また、チャイルドの家族や地域の人たちが「子どもを中心とした開発」を理解し、その支援活動の中心を担っていくような啓発活動も行っています。



クリスマスカードの作成を行う子どもたち

お問い合わせ

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン

電話：03-5334-5351 FAX：03-5334-5359

e-mail：dservice@worldvision.or.jp ホームページ：www.worldvision.jp

ワールド・ビジョン・ジャパンの活動についての最新情報を掲載しております。ホームページにぜひお立ち寄りください。



# プログラム近況報告

World Vision

この子を救う。未来を救う。

インド カンドゥクール地域開発プログラム(IND-195545)

2013年度(2012年10月1日～2013年9月30日)

## 生命の明かり!

カンドゥクール地域開発プログラム(以下、ADP)では、電力が不足し、特に夏の間は一日14～15時間にわたり停電することがたびたびあります。また、地域には毒蛇やさそりなどがいるため、暗い夜に歩くことは危険が伴います。ADPではこの問題に対処するため、1,309世帯にソーラーランタン(太陽光発電の電灯)を配布しました。これにより、夜の外出時の安全面が改善されたほか、子どもたちもより多くの時間を自宅での学習に充てられるようになりました。



試験勉強をする子どもたち。ソーラーランタンが役立っています

### チャイルド・スポンサーの皆さま

日ごろより、チャイルド・スポンサーシップを通して、温かいご支援を賜りまして、心より感謝申し上げます。2013年度の活動報告として「プログラム近況報告」と、チャイルドの「成長報告」をお届けいたします。昨年度も活動を進めることができましたのは、子どもたちを思い、継続的にご支援をくださる皆さまのおかげと、感謝しております。

この1年の地域支援における活動の成果、今後の課題をご確認いただくとともに、チャイルドの成長とともに喜んでいただけますと幸いに存じます。

皆さまのチャイルド、そしてすべての子どもたちが健やかに成長できる地域となることを目指し、活動を続けてまいります。

皆さまの尊いご協力を、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

特定非営利活動法人  
ワールド・ビジョン・ジャパン  
常務理事・事務局長

片山 信彦



## ADPマネージャーからのごあいさつ

皆さまからのご支援により、カンドゥクール地域の人々、特に地域の子どもや女性の生活が改善されています。子どもたちの健康状態が改善し、より多くの子どもたちが学校へ通えるようになっていきます。今後も、地方政府やほかのNGOなどとも協力し、活動を進めてまいります。皆さまからのご支援に心より感謝いたします。

ジョンソン マルラプディ (カンドゥクールADPマネージャー)



## 栄養プロジェクト

今年度は、生後6カ月から5歳未満の子どもたちを対象とした栄養状態の調査を行い、地域の563人の子どもたちが栄養不良の状態にあることがわかりました。これらの子どもたちの栄養状態の改善のため、3カ月間の緊急栄養キャンペーンを行い、母親たちは持ち寄った地域で入手可能な野菜や果物、豆類などを使って栄養豊富な食事の提供を行いました。食事の提供を行った27カ所のセンターでは、母親グループを作り、保健ボランティアや政府の保健スタッフなどの協力を得て、産前産後の母子ケアや安価で栄養豊富な食事について、また、水・衛生に関する講習会を実施しました。これらの活動により、232人の栄養不良の子どもたちの内、63%の栄養状態が改善しました。



栄養豊富な食事をとる子どもたち

## 指導者育成プロジェクト

地域が継続して発展していくためには、地域住民が適切なリーダーシップを取れるようになり、活動の運営をできるようになることが欠かせません。ADPでは子どもたちやその保護者、住民組織のメンバー、若者グループなどに対し、リーダーシップに関連する研修や能力強化を目指した活動を行いました。リーダーシップの育成はほかのプロジェクトの実施にも大きな影響を与えるため、具体的な研修などは栄養・経済開発プロジェクトの活動の中で行われました。特に今年度は栄養プロジェクトの中で、栄養や保健衛生に関連した研修会や講習会を通じ、母親、住民組織のメンバー、政府関係者にもそのリーダーシップ強化を行い、地域の子どもの栄養不良の改善につなげています。



地域の女性たちへの研修の様子。地域住民がリーダーシップをとって活動を進められるようになることを目指しています



## 経済開発プロジェクト

地域の子どもたちの栄養不良の改善のため、各世帯が子どもの栄養を支える十分な食糧を入手できるよう、収入向上の活動を行いました。今年度は、地域全体の経済状況を改善する対応策について話し合いを行い、地域住民を始め、地方政府の職員、地元で活動するNGOや地域の指導者などが参加しました。その結果に基づき、経済開発のための活動を計画し、地域のニーズに沿った活動を行っています。

具体的には、乳牛の支援や、運搬業を行えるよう3輪車（リキシャ）の支援を行ったほか、32世帯に対し、パン作りやコンピュータなどについての研修を行い、各世帯の収入向上に向けた支援を行いました。

また、身分制度による差別が根強く残るインドで、最下位カーストにさえ属せず、社会的、経済的に弱い立場にいる人びとも地域の支援対象となっています。

ア Nilさん（32歳）は、自分より高いカースト出身の女性と結婚したため、どちらの家族からも支援が受けられず、3歳と6カ月の栄養不良の子ども2人を抱えて非常に経済的に厳しい生活を送っていました。しかし、ADPが彼の住む地域で活動を行っていたため、彼もリキシャの支援を受けられるようになりました。また、野菜の種子の支援も受け、家庭菜園を始めました。今では、子どもたちに一日3回、栄養のある食事を食べさせられるようになり、栄養状態が改善しています。



地域の家庭菜園の様子

### 会計報告

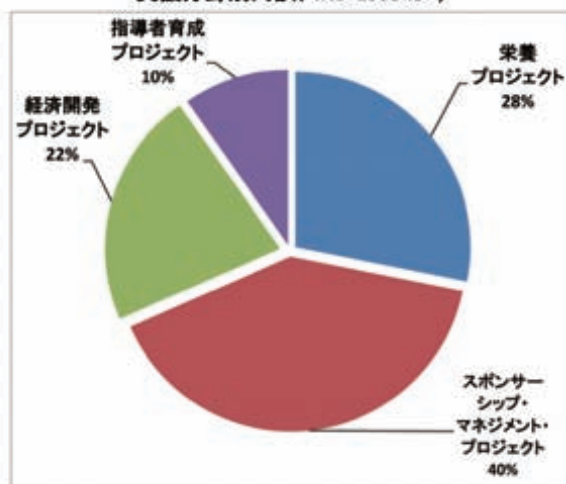
#### 収支計算書

自 2012年10月1日 至 2013年9月30日

	IND-195545 (単位:円)
プログラム支援額	22,535,561
チャイルド・スポンサーシップ	22,535,561
当期支援額	1,773,933
前期繰越金	24,309,494
プログラム支援額合計	24,309,494

プログラム支出額	
栄養プロジェクト	5,979,914
スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト	8,559,649
経済開発プロジェクト	4,636,210
指導者育成プロジェクト	2,069,234
プログラム支出額合計	21,245,007
次期繰越額	3,064,487

#### 支援分野別内訳( IND-195545 )



## スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト

「スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト」では、チャイルドとの手紙の交流や毎年の成長報告などを通して、支援の成果を実感していただくための活動を行っています。そのため、チャイルドの成長を定期的にモニタリングし、支援事業がチャイルドとその家族、さらに地域の人々の生活をどのように改善しているのか確認を行っています。また、チャイルドの家族や地域の人たちが「子どもを中心とした開発」を理解し、その支援活動の中心を担っていくような啓発活動も行っています。



就学前教育センターに支援された遊具で遊ぶ子どもたち



配布された通学用かばん

スポンサーシップについての話し合いに  
参加する地域住民



お問い合わせ

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン

電話：03-5334-5351 FAX:03-5334-5359

e-mail: [dservice@worldvision.or.jp](mailto:dservice@worldvision.or.jp) ホームページ: [www.worldvision.jp](http://www.worldvision.jp)

ワールド・ビジョン・ジャパンの活動についての最新情報を掲載しております。ホームページにぜひお立ち寄りください。